



柳沢小学校の皆さん、こんにちは！12月に入り、パラオはすっかりクリスマスモードになっています。街中の至る所にイルミネーションがあり、今週末にはクリスマスナイトマーケットが行われるそうです。今回は、前回に引き続き戦地となったもう一つの島について紹介します。



本島から約70km離れた島「アンガウル島」

アンガウル島ってどんな島？

アンガウルは東西約3km、南北約4kmの小さな島です。この島は、以前パラオ通信No.2やNo.8でも少し紹介したように、世界で唯一公用語に「日本語」が定められています。



アンガウルは、パラオで唯一サルが生息している地域でもあります。その名も「アンガウルモンキー」。ドイツの統治時代に持ち込まれたもので、今では島民よりもサルの方が圧倒的に多くなっています。その数は1000頭以上と言われており、島民の10倍以上もいることになります。車で走っていると、サルや大きなトカゲにもしょっちゅう出くわす自然豊かな場所です。

アンガウル島で起こった戦い

アンガウル島は、ペリリュー島と並んで第二次世界大戦の激戦地として知られています。1944年9月15日にペリリュー島での戦いが始まると、わずか2日後の17日には、圧倒的な兵力差（日本軍約1200人に対し、米軍約21000人）を誇る米軍がアンガウル島に上陸しました。日本軍の激しい抵抗もあり、戦いは約1か月続きました。この戦いで、約1150名もの日本軍の兵士が戦死したと言われています。



日本統治時代、アンガウル島ではペリリュー島と同様に、日本人と現地の島民が共に暮らしていました。米軍のアンガウル島侵攻が予想され、日本軍は島民を本島へ避難させるべく手を尽くしたと言われています。しかしながら、アンガウル島民の120人は避難することが出来ず、約1か月近くジャングルの洞窟の中に隠れていたそうです。彼らが隠れていたとされる場所には、アンガウル島での戦いの49周年を記念して「島民解放記念碑」がアメリカによって建てられました。



↑アンガウルに残された戦争の跡

島民の120人は避難することが出来ず、約1か月近くジャングルの洞窟の中に隠れていたそうです。彼らが隠れていたとされる場所には、アンガウル島での戦いの49周年を記念して「島民解放記念碑」がアメリカによって建てられました。



↑島民解放記念碑

↑メモリアルパーク（日本人戦没者の慰霊碑）

パラオ通信質問フォーム

気になること、知りたいことがあれば、自分で調べたり、質問したりして解決してみてください。
(QRコードを読み取ると質問ができます。)

